

新校長赴任

新任のご挨拶



学校長 小林 克茂

桜井前校長の後任として前橋商業高校から赴任しました小林です。翠巒体育会には運動部活動の後援をはじめ、日頃何かと御指導いただき感謝申し上げます。私も運動は大好きで、どちらかというと体育会系に属する人間と自負しています。学校現場ではソフトテニスの指導に係わった経験を持っていますが、生徒は試合に勝つて喜び、試合に負けては泣きます。勝った時の感動、負けたときの悔しさ、何れの顔も高校生らしく清々しさを感じます。我々職員にとつては、

部活動を通して生徒が成長していく姿を見ることが楽しみの一つです。これから私もいろいろな部活の応援にいくつもりです。そして、沢山の感動を体験したいと考えています。翠巒体育会には今後物心両面にわたりお世話になることが多々あると思いますが、桜井前校長同様「指導」鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

さて、翠巒体育会は昭和四十九年五月、戦後の運動部の卒業生が中心となって母校運動部の後援、会員相互の親睦を目的として設立されたと聞いていますので、今年満二十七歳を迎えます。当時の校長は先日亡くなられた中野敏宗先生でした。中野先生も高校生の健全育成、学校の更なる発展を考えたとき、文武両道の方針が何よりも大切と考え、翠巒体育会の設立に熱い思いを寄せたに相違ありません。高上の部活動は従前も盛んでしたが、翠巒体育会が設立されたからより活発となり、学校をあげての組織的な応援ができるようになりました。その結果、「高崎高校百年史」によると昭和五十三年度より三年連続して高校総体総合三位に入るなど運動部黄金時代を迎えたと記されています。確かに、五十六年には硬式野球部が選抜出場を果たしたのをはじめ、

五十七年にはサッカー部が全国高校選手権に出場、またラグビー部も全国大会に出場しました。そのラグビー部は、五十八年には群馬国体で活躍し、翌五十九年には県高校総体で総合一位に入るなど、高上の活躍は凄まじく、枚挙にいとまがありません。爾来今日まで、高上の文武両道の実践は衆目の認めるところであります。こうした素晴らしい成果を残すことができましたのも、翠巒体育会をはじめ多くの方々のご支援のお陰であり、重ねて心より感謝申し上げます。

私も持論として、高校生は文武両道を実践していくべきと考えています。それは高校時代は年齢でいえば、十五歳〜十八歳であり、この時期は人が一生のうちで肉体的にも精神的にも一番成長する時だからです。この時期高校生が運動に熱中し、しっかりと身体を造ることは何よりも大切なことであります。「健全なる肉体に健全なる精神が宿る」とよく言われますが、高校生が高校生らしく生活するには、一日一度は健康な汗をかくことが大切であり、部活動は最良の場と考えています。

近年、学校体育の問題がいろいろ議論されています。例えば、学校週五日制に伴い地域スポーツに移行させたらどうかとか、少子化に伴いチーム編成ができないとか、指導者が学校にいないとか、今日の話題が沢山あります。

しかしながら、私は学校体育の教育的意義をもっと考える必要性を感じています。学校体育を社会体育に移行するといつても、未だ十分な環境が整っているとはいえませんが、青少年の健全育成を進める中で部活動は大きな役割を果たしています。部活動に励

みながら子供達は先輩との係わり、学校生活の過ごし方など、厳しい練習を通して学ぶ様々な経験が子供達を大きく成長させています。また、先生方も部活指導に携わると、土日曜日が部活に追われ、休養が取れないと同時に家庭サービスができないということもあります。しかし、先生は部活動に携わる中でいろいろなことを学びます。生徒の気持ちや理解できると同時に先生自身の職能成長も大きく図ることができ、そして教育に生き甲斐を感じ、満足感を味わうことができます。教育は先生方の使命感によるものが大で、先生方が使命感に燃えて初めて生徒との信頼関係が生まれるのです。更に、これからは生涯スポーツの時代です。スポーツを通して自らの健康管理を図ることが必要です。高校時代にスポーツの経験がない人は、スポーツに親しむ術が少ないと言われています。その意味では、高校時代が技術習得にも一番適齢期であり、高校時代の運動は生涯スポーツの基礎づくりにとっても過言ではありません。高校生にとつて、部活動を通じた高校生活は大きな意義があります。

大学受験を考え、部活動に加入することを躊躇する生徒もいると思いますが、私はいろいろな機会を通して生徒に部活動の有意性を説き、学校の活性化を図っていきたいと考えています。高上の部活動が益々盛んとなり、同窓諸兄が部活動の活躍に一喜一憂できる日が一日でも多くなることを祈念しています。

今後とも翠巒体育会に絶大なご支援をお願いし、挨拶いたします。

シリーズ寄稿[VOL.2]

回想録

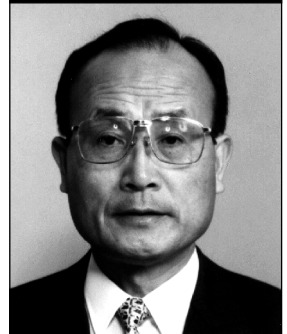
REMINISCENCES

野球部

悲運に泣いた甲子園
うらばなし

野球部OB会長

飯島 勇 (57期)



を抜け出し千葉市街に出た。

前年、作家石原慎太郎氏が強烈なデビューをし、若者に慎太郎旋風を巻き起こしていたが、丁度千葉で太陽族の映画が上映されており、映画館にもぐりこんだら、館内はセーラー服姿で一杯、でもみくちやにされた。千葉の女性も凄。

《春季関東大会》

1回戦 4対0 関東高校

2回戦 0対2 早実

この大会は早実が優勝したが、クリンナップは徳武(元国鉄)、醍醐(元大毎)、王(現ダイエー)監督で、ダイナマイト打線といわれていた。

《昭和31年夏》

野球部OBには戦前に阪神タイガースで大活躍をした三輪投手のような大先輩もいたが、この年のチームは高野野球部史上、戦後最強のチームと言われていた。

ピッチャー高橋さん(巨人入りした藤田投手なき後の日石エース、キャッチャー木村さん(日大で全国大学野球選手権大会で優勝、後にプロ野球阪急)、センター中村さん(中大で東都大(学首位打者、ノンプロ丸善で都市対抗戦優勝、敢闘賞)、ショート立見さん等錚錚たるメンバーだった。

1回戦 3対0 前高

2回戦 2対3 藤高

8回まで2点リード、逃げ切りかと思われたが守備の乱れから3点を失い、逆転負け、涙をのんだ。期待されていたチームだけにショクが大きかった。(藤高は北関東大会決勝戦で延長21回の末、足工に敗れる)

《新チームスタート》

強いチームの後の弱体チームは悲惨なもので、OBからは見放され見向きもしてもらえなかった。

高崎高校

野球部OB会

会長 飯島 勇(57期)

細谷主将以下新チームの部員わずか13人。勿論マネージャーもユニホームを着て練習に参加した。

心機一転、最初からスタートすることチームの和をより強固なものにするため松原湖畔にキャンプをした。楽しむどころでなく朝夕は湖畔のランニングと日中はルールブックの勉強。最終日には八ヶ岳までランニングで往復し、登山の山男達を驚かせた。



キャンプから帰ると炎天下の過酷な練習が始まった。市川先生は「おまえ達は弱いんだから、棒も球もいらぬ。頭と足を使え」とランニングの練習が主でバットとボールはなかなか握らせてもらえなかった。厳しいながらも、小人数が故に効率的な練習ができ、練習メニューはすべて自分達で考え、バントの練習を徹底的に行なった。ノックは内野組、外野組に分かれてお互いに

今春の選抜高校野球大会は茨城県の常総学院が見事優勝を飾ったが、我々の現役時代には一度の甲子園出場チャンスがあったが、いずれも代表決定戦で敗れ、甲子園出場の悲願達成はならなかった。

現在の制度なら春夏連続出場できたことになるが、マネージャーとして裏方の立場から当時は振り返ってみた。

《昭和31年春(2年生)》

前年の秋季関東大会群馬県予選準決勝戦で桐高に大接戦の末、1対2で惜敗。

しかし、その試合内容、実力が評価され、昭和31年春、学生野球結成記念明治神宮大会に群馬県代表として前商と共に出場した。桐高は選抜甲子園大会(出場)白地にエンジマークのユニホームは、その時に新調したものである。

1回戦 5対1 浦和

2回戦 0対2 立教

この時の立教の一塁手が後に豊の監督を永らく務めた斉藤氏(現立大監督)である。

《打倒桐高に燃える》

群馬県高校野球界では、当時稲川東一郎監督率いる桐高が前年の選抜甲子園大会において今泉一田辺のバッテリーで準優勝するなど正に全盛時代で、各校とも打倒桐高を目標に燃えていた。

春の大会を前に、専大OBで臨時コーチに招聘されていた上川氏の命を受け、桐生市の新川球場に桐高の試合の偵察に行かされた。

桐高各選手の特徴、打力、走力、肩は勿論のこと、一球一球のコース、球種まで克明に記録し、分析して報告した。よく偵察して来たと言われられるかと思ったら、フールボールのコースと球種が入つておらんアカン」とスコアブックで頭を殴られた。

しかし、全員のミーティングでこのデータを基に桐高選手の一人ひとり徹底的に研究し、これが打倒桐高の執念を一層燃えさせた。

春の関東大会群馬県予選は順調に決勝戦まで勝ち進み、決勝戦は宿敵桐高との対戦となり、接戦の末、5対2で快勝し、優勝した。執念が実った。勝った。勝った。桐高に勝った。優勝だ。高橋ベンチは湧いた。

稲川監督が高高にしてやられたと地団駄を踏んで悔しがったとか。

《千葉市営球場で行われた春季関東大会に群馬県代表として出場》

雨で試合が順延したが練習場が借りられず練習休み。学校は休みでも練習のない日はなかった。練習休みは元日以来だろうか。

市川先生(後に群馬県高野連理事長、中央高校初代校長、愛称ガーチャン)に内緒で宿舎

しごき合った。

自分達の緻密な考える野球を編み出すために、ボールが見えなくなつてからもマウンドに集まつてはバッテリーと野手の連携プレー、トリックプレー等、喧々囂々の大激論が夜遅くまで続き、電車通の選手は最終電車がしほしほだった。そんな時、野球部OBではないが、46期の先輩が裸足でスボンの裾を捲り、手にマメを作りながらノックをしてくれた。ノックは上手ではなかったが、何かと勇氣づけられ、心の支えになつてくれたことがとても嬉しかった。

ボールも破れ、練習にも支障が出てきた時、東大のエースとして6大学野球で活躍していた吉田先輩が心配して下さり、文京区本郷の東大野球部一誠寮に使い古したボールを貰いに時々お伺いしたことがある。

汚れていたが磨けばニューボールと同じで大変有難かつた。

炎天下のハードな練習が毎日続き、何とか自分達の実力を試して見たい。そんな気持ち膨らんできた。

夏休みの終わり頃、市川先生に内緒で高商と高工と非公式の練習試合をやり、これが連敗。このことが後で市川先生にはれて烈火のごとく怒られた。

高商、高工の同期の野球仲間とは、3校球友会を作り還暦を過ぎた今でも旧縁の輪が続いている。

本格的にバッティング練習を始めたのは夏休みの終わり頃だったが、基本ができていたので仕上げは早く、早速始まった新人戦は西毛リーグ優勝。

そして迎えた前高との定期戦。

前高の投手は一年生からエースで練習試合とはいえ強豪早実を完封している宮田投手(後

に巨人軍の8時半の男、現巨人軍コーチ。試合は細谷投手と宮田投手の投げ合いになったが、宮田投手を打ち破った。

我々はこの時から絶対の自信を持つようになり、ここから無敗の快進撃が始まった。

《秋季関東大群馬県予選》

順調に勝ち進み、決勝戦で伊勢崎と対戦。0対0で迎えた9回裏、田村選手がレフト越えの2塁打。手堅く3塁に送つた後、夏休みが終わつてから入部したばかりの窪庭選手(一年生)を代打に送る。

「サインが出ればやりませう」と本人は自信を見せた。初球決めた「鮮やか」。ベンチの期待通りスクイズを見事決めて1対0で辛勝し、優勝。

そして秋季関東大会に群馬県代表として出場した。

《秋季関東大会(宇都宮県営球場)》

1回戦 6対1 千葉商

準決勝 6対0 宇都宮工

決勝戦 1対2 甲府工

1対1で本校押しきみに進めて迎えた延長11回の裏、死2塁より、ライト前にポテンヒットを打たれ、1対2のサヨナラ負け。

残念。ああ、甲子園は夢だったか。

ゲームセット後、審判より「2塁走者が3塁ベースを踏まずにホームインしたので、気付かなかつたのか」と注意を受けたが、後味の悪い負け方だった。

悲運としかいいようがない。新人戦になつてからの公式戦はこの1敗のみであった。

秋季対戦成績の高野連への報告の際、市川先生に叱られた非公式練習試合高商、高工の連敗記録を報告から除こうとも考えたが、既に新聞社に嗅ぎ付けられていたので新チームの

成績17勝3敗として報告した。

秋季関東大会準優勝。しかも決勝戦は延長戦の末、惜敗。もしかして選抜甲子園大会に出られるかも知れない。

選抜選考に期待し、我々は修学旅行を返上して冬期練習に励んだ。

後援者も温かく支援して下さいました。

ある日、後援会長の佐藤寿雄先生のご自宅に野球部員全員が招待され、牛肉のスキヤキを美人のお嬢様の持て成してたらしく馳走になつたことがある。世の中にこんなにおいしい食べ物があるかと驚嘆した。

また、雨で練習が早くあがった時には、井上工業社長の井上房一郎氏のご自宅に皆で呼ばれてカツ丼をよぐ、馳走になつた。あの味は今でも忘れられない。

井上氏には後に法人主体の特別後援会を設立し、協力していただいた。

《城南球場(冬期合宿)》

城南球場に合宿し、厳寒の中、バッティング練習だけは続けた。

毎朝5時起床。まだ星が輝いている。とにかく寒い。暗い中、観音山の階段をランニング。柔軟体操後、城南球場から学校へ通った。

市川先生は文武両道に厳しく、練習後も毎晩、机に向かわされた。とにかく眠い。アクビをしている者、ふさげ合いを始める者、部屋の隅でエロ本を読み始める者。市川先生の大きい目がぎよつと光る。一瞬静かになるが、またこつくりこつくりがはじまる。これだから学校の授業中はよく居眠りをしたものだ。

一番困つたのは、一ヶ所しかない便所で朝は順番待ちだった。

合宿中、見知らぬ女学生からリンゴとか果物の差し入れもあった。こんな時は皆で奮い合

いで、1つ素早くポケットに入れ、2つ目を狙う者もいた。

厳寒の中での練習。寒さのため両手の指と指の間が裂け、バットが血で滲んだ。現在のような皮手袋などはなく、バットは竹製だった。

市内の魚屋さんから空箱を貰い集め、これを風除けのネット裏で燃やして暖をとった。選手の練習し易い環境をつくるのもマネージャーの重要な役割だった。

やがて城南球場のネット裏の壁が魚の脂と煙で染み付き、真っ黒になつてしまい、これが球場の管理人に見つかつて、大目玉をもらった。石鹸水でいくら洗つても落ちない。困つた。どうしよう。

翌日、金森監督とともに高崎市役所に呼ばれ、偉そうな人から怒鳴りつけられた。学校に知れたらどうしよう。ますます問題が大きくなつてしまふ。

ただただ、ひたすら謝った。

《選抜甲子園大会選外優秀校》

昭和32年1月31日、校長室に呼び出された。城南球場のこともあり一瞬不安が過つた。細谷主将以下、野球部員全員、恐る恐る校長室に入ると校長室には田中悦平校長と市川先生が神妙な顔をして座つていた。

田中校長から「たつた、毎日新聞社から連

高崎高校

剣道部OB会 剣友会

会長 横田 茂(55期)

絡があり、本校は選抜甲子園大会出場選出にもれ、選外優秀校に推薦された」と涙しての伝達があった。

「夏がある。夏を指して頑張ろう」：田中校長、市川先生が「籍になって泣いてくれた。残念だ」「悔しい」「ああ甲子園出場は夢か!」「よし、夏の大会には何が何でも甲子園に行こう!」。

慰め合いながら密かに闘志が湧いてきた。当時は全国からの選抜出場校は20校で、結局関東地区からは甲府工一チームが代表校に選抜された。(この選抜甲子園大会は早実が制覇した)

後で聞いた話だが城南球場の件は市役所には先輩の誰かが田満に解決して下さったそうだ。先輩とは有難いものだと思つた。

《昭和32年春(3年生)》

選抜漏れした本校は、学生野球結成記念明治神宮大会に群馬県代表として2年連続出場した。

- 1回戦 2対1 日大一高
- 2回戦 0対4 富山商

この大会は水戸一高が優勝。選抜甲子園大会には出場できなかつたものの、東日本に高崎高あり。マスコミにも大きく取り上げられ、細谷投手は早実の王投手と並び評された。

こうなると関東の強力各校より試合の申し込みが殺到し、週末はほとんど遠征した。勿論桐高からも申し込みがあったが、県外チームとの試合を優先した。

早実には何度も遠征したが試合には熱が入った。王投手の球は早く、重かつたが、バッテリーは物凄く、目を見張るものがあった。驚いたのは西武線武蔵関の早実合宿所で寮生活

と規律の厳しさは、別世界を感じさせられた。



《昭和32年夏 群馬県大会》

- 1回戦 不戦勝(シード)
- 2回戦 7対0 高商

初戦は誰でも緊張するものだ。1回の表、簡単に2アウトをとつてから3番打者にライト右に打たれ、普段なら平凡なライトフライかと思われたが、竹内選手緊張のあまり足がでず、3塁打となった。

細谷投手は竹内選手をマウンドに呼び寄せ、大観衆の前でいきなりキンタマを握り「落ち着け」と一言。以後全員冷静さを取り戻して、ヤットアウト勝ち。

- 3回戦 7対2 前工
- 準決勝 2対0 桐高

宿敵桐高との対戦。実力からして事実上の決勝戦と言われた。

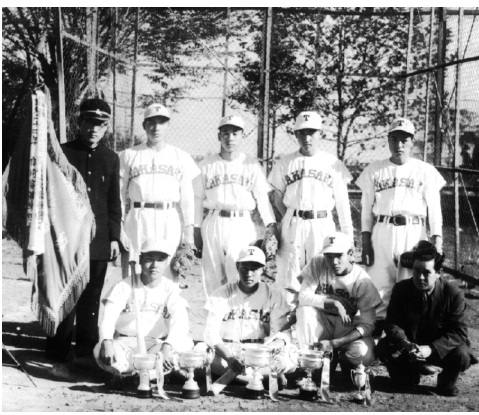
前日の前工戦で田島捕手が右手をファールチップで裂傷。4針縫うが、相手に分からないように包帯をしないで出場、幸いにも相手ベンチからは盗塁のサインは出なかった。

細谷投手と桐高大島投手(元中日)の投げ合いだったが、本校は桐高得意のバント戦術を逆手にとり、桐高ナインを攪乱、翻弄させた。なかでも吉田選手のバントに見せかけたプッシュインクなどは見事だった。

またショート本多選手の再三のファインプレーが細谷投手を助けた。

中盤ヒットで出塁した竹内選手を1塁におおき、田村選手の三遊間安打をレフトが後逸する間に竹内選手は駿足を飛ばして一塁にホームイン。8回には2塁打で出塁した須郷選手を竹内選手が鮮やかなライト前ヒットで還し、宿敵桐高を2対0で破る。

投打がかみ合い、負傷をおして出場した田島捕手の好リード、細谷投手と内野手のコンビネーションの良さが光った一戦だった。



株式会社大陸不動産

代表取締役 山口正敏 (卓球部・58期)

高崎市宮元町一〇八番地
TEL〇二七-三三二一四〇三二

決勝戦 1対0 富高

細谷投手と富高斉田投手の手に汗を握る投げ合い、細谷投手は富高を1安打に完封。1対0で快勝。群馬県大会優勝。

当時のメンバーは、P細谷、C田島、IB吉田、2B窪庭、3B新井、SS本多、LF田村、CF須郷、RF竹内、熊沢、若山、星野、岩井、吉川、島方、佐俣、金田であった。

《北関東大会(水戸県営球場)》

- 1回戦 7対0 水戸一高

細谷投手、頭腦的なピッチングで相手強力打線を抑え完封。攻めれば本校の打線が爆発し、水戸一高を撃破した。

初戦が優勝候補筆頭チームとの対戦なので、日帰りの予定で駆けつけてくれた応援団だったが帰るわけにはいかない。そこで水戸まで応援に見えていた井上房一郎氏にお願いしたところ、公社の水戸営業所の宿舎を応援団のために快く提供して下さった。

選手宿舎の旅館の前には地元女学生ファンが殺到し、市川先生が渋い顔をしていた。明日の試合に差し障るのでマネージャーの私が入り込んで窓口に整理したが、相手が女学生だけに苦労した。

「この調子ならば先輩達が野球部創部以来、幾たびかその機を掴みながら悲運に泣いた甲

子園出場の夢実現かと地元高崎ではおおいに沸いている。後援会ではチョーチンの準備に取り掛かるから」と電話連絡が宿舎に入った。

準決勝 1対0 宇都宮商

細谷投手が好投し3回まで3者凡退に抑える。

3回の裏ヒットで出塁した細谷選手が2塁に送られてから、次打者のショートゴロで3塁に突進し、スライディングした際、足首骨折。

しかし、その後、気力で4回まで投げたがそのまま救急車で病院に運びこまれた。

5回から救援した2年生の若山投手は良く抑え、打つては田島選手が貴重な1点をたたき出して1対0で連続完封勝利。

いよいよ北関東大会決勝戦進出。

あと1勝で悲願の甲子園だ。

相手は地元高崎の利を有して出場したタワークホース土浦一高。

入院中の細谷選手の分まで皆で頑張ろう。

今までの汗と涙に紛れて練習してきた成果をここで出そう。選手一同闘志に燃えた。

決勝戦前夜のミーティングで細谷投手なき後の投手起用作戦を練った。

準決勝戦で好救援した若山投手を先発させ、1年生の島方投手、そして1塁手ながら急遽吉田選手を投手に起用し、3人で3回ずつ

継投する作戦を立てた。

北関東大会

決勝戦 1対6 土浦一高

1点を先取し、6回までリードしていた。しかし途中打ち込まれ水戸県営球場開設以来と言われたトリプルプレーなどで凌いだ。7回に4番打者安藤選手(慶大)後に阪神監督に強烈な2塁打を打たれたのを足がかりに大量6点を許してしました。継投も或いは早きに

失し、或いは遅きに過ぎて1対6で破れ、甲子園目前で涙をのんだ。残念無念、不運の限り。またしても悲運に泣いた。遂に勝利の女神に最後に見放された。

甲子園は夢に終わった。甲子園への道は険しく遠かった。

高崎からは多くの応援団が泊まり込みで駆けつけて下さったが、何とも力強く、有難かった。側面からの後援、声援をいただいた皆様に心から感謝とお礼を申し上げたい。

悲願の甲子園出場は昭和56年、選抜甲子園大会に後輩達が見事果たしてくれた。

現役選手よ、頑張れ。今一度甲子園に行こう。大スタンドでスクラムを組んで「翠巒」を声高らかに歌おうではないか。



KIZUNA
サッカー部

青春の絆

清野哲雄(74期) SOCCER

翠巒体育が発行されて、第二十号記念となり、誠に喜ばしいです。

「青春の絆」がバトソリレーされ、各運動部を一周したとの事。

サッカー部に一周目をスタートとの編集委員会の依頼を受けて今回は、全卒業五四〇名の内、若手から熟年の九名に召集して頂き率直な意見と回想を交えた座談会を行ったので、これを編集してみました。気軽に一読して頂ければ幸いです。

「出席者九名(個人名敬称略)」

「69期 阿久澤茂(会長)」

「49期 松田健」「63期 大久保滋郎」「73期 赤羽英光」「74期 國峯賢二」「74期 清野哲雄」「77期 上村千秋」「86期 田中康二」「97期 佐藤雄二」

本日、平成十二年五月十一日、現役は県総体準決勝で優勝候補の前橋育英と対戦した。新人戦で敗れた高崎は、1対1で富岡、中央、明和、常盤と撃破して、今日1対1で延長戦となるが1対1で、結果2対3で残念だが敗れ、金星を逃す。この経験を生かし、総体予選を勝ち抜いて頂きたい。今日は、新校長小林克茂先生も応援に觀られ、熱心な姿勢に大変嬉しい。そう言えは、京都総体の頃、故・古川校長が幾度も応援に来られた姿が忘れられない。

昔は、合宿と言えは、年一回で旧剣道場の隣で寝泊りしたが、昭和四十八年に翠巒会館ができ、合宿には好環境となるが、余りに汚れた(汚したので、改修となる)。

遠征試合などした年代は殆どなく、県内の試合であった。八十周年事業で、グラウンドが芝生となりスプリングクレーが回っていたことなど、今は影もないので覚えてる者も少ないだろう。その昔には、芝の種を蒔いた実話もある。

高崎高校

サッカー部OB会

会長 阿久澤 茂(69期)

お陰で、グラウンドが使えず、練習が假ならぬ年代もあり、不便なことをした。訳あって、夏合宿が下諏訪となり、当時のエピソードは、監督とOBには数え切れない。

今は、上田・草津・波崎などの遠征入合宿と豊富な県外試合をこなす。保護者には大変な御苦労と察する。ここまで培われて頂いた歴代の顧問・監督・コーチ・高橋基治先生、慶応大サッカー部、故井上房一郎氏には感謝の一語に尽きます。

京都総体の想い出には、三週間で千八百万円集めた事、OB・保護者同行で万福寺宿泊の一杯皆仕事休んでまで、満喫していた。

一方、勝ち上がった現役は天下の国見見高校戦、前日は休養日とか。

各人、觀光？買物？勉強？と楽しんだようだが、皆揃って口固く自分の行動を他言しない。(何故？勝つ度、食事は豪華になり、坂田監督も上機嫌とのこと。やはりこの年代も変わり者多しと、マントと下駄で登校するのは誰？

OB会と翠巒クラブの話題となる。高高校の運動部は皆、数々の戦績と実績を持つ名門である。が、サッカー部は過去それ程でもない。

代表としては国体一回、全国高校選手権一回、高校総体一回である。OB会発足は昭和四十七年頃であり、会長は初代・國善善次郎、二代目・佐藤義夫、三代目・阿久澤茂と続く。発足以後、現役への物心援助と、翠巒体育会への協力を奮闘する。また、直ぐにOB会の社会人チーム「翠巒クラブ」が群馬県社会人リーグに参加する。

当然、三部よりスタートして、吉田紀久雄中心にして、奮闘して、二部昇格、清水清志、清水正志らの活躍で一部昇格となる。世代を越えた幅広い選手層で、高高校OBチームとして異色

を放つ。その後、三部まで降格するも、昨年は若き世代の加入で、復帰組とベテランとの融合を持って選手層が厚くなり、本年二部昇格となり、さらに上位を目指す。

なお、翠巒クラブを勇退した四十代前後以上の選手は懲りもせず、「ミドル翠巒」などというもので二十歳そこそこのチームとして勝つことを楽しみ誇りにしている。誠に、自覚症状があるにしては、おぞましい。また現役プレイヤーの大久保滋郎・時田和典などは、ただただ凄しい。

我が高高校の精神からすると、誉めて良いなら、「翠巒」という名でサッカーをすること、ささやかに新聞に載る楽しみに満悦なのかもしれない。

話題は、再び、現役に移る。現役顧問の中で、監督努める坂田和文先生は、東京出身で筑波大を経て赤城国体より、群馬県に赴任する。前高の監督時代に見初められ高高校へ来て頂いた。常に「こやかだが、サッカーだけは、当然別人格となる。OB諸兄と保護者会には、格別の心服がある。現役学生のサッカーを通じての人生将来を考えて指導してくれる。選手を公平に判断して、個人技のみで評価しない。もちろん逃げるものは嫌いだ。勝てばよいのではなく、内容を選手に問う。全国でも有名な指導者で、高高校サッカー部では、これ以上の人材は難しい。戦績のみでなく、益々の御活躍を応援しています。

サッカー部OB会は、初蹴会、新年総会、前高との定期交流戦等を行っています。OB諸氏の御賛同と御参加をお待ちしています。今回、急な座談会にも関わらず貴重な意見想い出を出席者に頂き御礼申し上げます。非常に断片的で粗末な文章であるかと存じま

すが、座談会の一編として御許しくください。サッカー部とOB会についての詳細は、創部三十五年史と創部五十年史に載っています。時にはゆつくりと開いて想い出に、くつろがれることを期待致します。現役の更なる活躍を期して。

平成12年度 翠巒体育会収支計算書 自平成12年4月1日 至平成13年3月31日

科 目	金 額	摘 要
収入の部		
年会費収入	325,000	13部
同窓会補助金	300,000	高崎高校同窓会
広告費収入	165,000	11部
親睦会収入	220,000	H12.6.23
ゴルフ大会収入	296,000	H12.10.1 □-スベイ
バザー収入	72,606	H12.4.29
祝金収入	20,000	高崎高校校長、國善善次郎
雑収入	23,000	会議個人負担等
受取利息	86	群馬銀行
(当期収入合計)	(1,421,692)	
前期繰越収支差額	224,740	
収入の部合計	1,666,432	
支出の部		
会 親睦会費	267,059	H12.6.23 高崎ビューホテル
現役補助金	100,000	高崎高校
会報発行費	346,500	翠巒第19号
ゴルフコンパ費	251,000	H12.10.1 □-スベイ
慶弔見舞金	13,500	鳥居先生 ご尊父

科 目	金 額	摘 要
支出の部		
事務用品費	2,630	
会議運営費	73,671	編集会議、全体会議等
銀行振込手数料	420	群馬銀行
雑費	8,000	
(当期支出合計)	(1,062,780)	
支出の部合計	1,062,780	
(当期収支差額)	(358,912)	
次期繰越収支差額	603,652	収入の部合計-支出の部合計

財産目録 平成13年3月31日現在

科 目	金 額	摘 要
現金	507,233	現金手許有高
預金	96,419	群馬銀行 高崎西支店
正味財産	603,652	(普)#0593363

会計監査 丸山 功一 廣田 誠四郎

代表取締役 掛川 秀雄
(バレーボール部・48期)

有限会社天神不動産

群馬県知事免許(八二二三三三)号
事務所 高崎 市 東 町 二 一 八
TEL 〇二七三三三三三 一 八七
自 宅 高崎 市 天神 町 一 三 〇
TEL 〇二七三三三三三 二 九一 九

月イチ卓球会

主催 61期 高見澤 隆

61期 与口 健一	68期 根岸 博昭
61期 高橋 正明	71期 堤 康高
65期 岸 潤一	75期 佐々木 修一
66期 掛川 健二	83期 高橋 茂樹
67期 赤松 茂光	85期 橋爪 洋介



株式会社
キャッスルオートセンター
欧州車・米車・新車・中古車販売

石田 光成
(硬式テニス部・91期)
〒370-1201
高崎市倉賀野町4677-1
TEL 027-347-3298
FAX 027-346-7774

COLUMN

スポーツと医療 [VOL.2]

最近健康に対する意識が一般的に高まっており、いわゆる中高年層で、健康増進のために運動やスポーツを始める方が増えております。また、中高年層の方に、安易に運動やスポーツが健康に良いと勧める雑誌の記事やテレビの報道を目にする事も多くなっております。しかし、そういった年齢層の方が安易に運動やスポーツを始めることは、医学的には非常に危うさを伴っており、そういった風潮に対し私は常々疑問を抱いておりました。なぜなら、中高年層では明確な病気をもちの方やいわゆる生活習慣病(糖尿病、高血圧、高脂血症)高尿酸血症を抱えた方が多く、また悪しき喫煙、飲酒等の生活習慣をおもちの方、さらに体型的にも肥満の方がきわめて多いからです。

たとえば、高血圧の方でも、病気が進展しいわゆる高血圧性心臓病の段階になると、些細な負荷でさえも心臓がうまく動かない状態(心不全)となり、医学的には運動を制限することが治療上必要となります。つまり、たとえ軽度な運動であっても病状を明らかに悪化させ、入院等の医学的処置が必要となってしまいます。しかし、中高年層であっても心臓を鍛えれば病気が治るなどと考えている方が多く、こういった病態でさえ長時間の歩行や早足の歩行を行い心臓に過度の負担を与えてしまい、心不

全状態となり入院をよぎなくされたり、場合によっては突然死したりすることがあります。これは極端な例ですが、いわゆる中高年層では、明確な病気をもちでない方でも潜在的に動脈硬化性疾患に罹患している可能性があり、先に挙げた生活習慣病等をお持ちの方は特に危険と言わざるをえません。

したがって、中高年層の方で積極的に運動あるいはスポーツを行える方は、まず、あたりまえのことですが心臓病あるいは肺、肝臓、腎臓の病気がないことさらに、生活習慣病がない方ということになります。以下、それぞれの疾患について順を追ってその危険性等について述べたいと思います。

肝臓疾患、脂肪肝とアルコール性肝炎については、アルコールを避け適度な量の運動をすることが一般的に勧められています。しかし、意外に知られていないことですが、慢性肝炎で、特にウイルス性肝炎(B型、C型)の方は生活習慣を制限することが治療の基本となるので運動、スポーツは制限されます。特に、原因のいかんを問わず肝硬変と診断されている方は、運動、スポーツとも禁止事項となります。つまり肝臓に負担をかけ病態を著しく悪化させてしまうからです。

次に肺の病気についてですが、閉

塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎)の方、あるいは原因のいかんを問わず慢性呼吸不全の方は、治療の基本は日常生活を制限することです。つまり運動、スポーツも制限されたものとなります。気管支喘息(純粋)では、発作時でないかぎり運動、スポーツは一般的には推奨されています。しかし中高年層のいわゆる喘息発作はなんらかの原因疾患を有している事が多く、単純に喘息といわれても運動やスポーツを勧めるわけにはいきません。

腎臓病については解りづらい話になります。明らかな腎不全の方はもちろんですが、いわゆる血液の腎機能検査BUN、クレアチニンの値が正常値より高い方は、程度の差はあれ運動は制限されます。人間ドックで血尿、蛋白尿を指摘されたことがある方は多いと思いますが、これも場合によっては運動、スポーツを制限されることがあります(マラソンおよび長距離走、長距離の遠泳等は原則的には禁止)。

心臓病についてはごくあたりまえのことですが、いかなる種類の心臓病であれ運動、スポーツは制限され、特に心不全状態にある場合は禁忌となります。

最後に生活習慣病についてお話ししたいと思います。生活習慣病には高血圧、糖尿病、高脂血症があり、い

れも原則として無症状ですが、長い年月放置すると血管の動脈硬化を進展させ動脈硬化性疾患(心筋梗塞、狭心症、脳卒中等)を併発します。特に、無症状で外見上まったく変化のない方でも、長い間高血圧、糖尿病、高脂血症に罹患している方の心電図や胸部レントゲン写真を見ると、明瞭な虚血性の心電図変化や心肥大を見ます。こういった方に無秩序、無原則に運動やスポーツを勧めることはたいへんに危険なことと思われま

す。つまり、運動やスポーツが心臓に負担をかけ狭心症、心筋梗塞を併発し場合によっては突然死も引き起こすからです。現在、アメリカでもジョギングは早朝の突然死の重大な原因となりうるため一時のように推奨されず、ウォーキングいわゆる散歩が推奨されていることを最後に申し添えたいと思います。



真木病院 内科医師
永尾 俊弘 水泳部 (70期)

OBの活動



硬式テニス部
英敏 齋藤 (83期)

部活動は、肉体と精神を鍛える。それは、先輩・後輩の関係から、人間社会や組織の中で生きるための知恵を学ぶこと。また、苦しい練習に耐えながら勝利の栄冠をつかむという過程を学ぶことで、人間としての生き方、在り方の原点を学ぶということであろうか。もちろん、損得勘定のない友人を得る、という喜びもある。

しかし近年、先輩・後輩に限らず、生徒間の交流が少なくなってきたように思われる。学年毎にかたまり、果ては学年間の対立にまで発展しているケースもよく耳にする。

部活動は、組織の中で社会人として生きるための、絶好の訓練場所である。その意味で、先生方にはより一層の厳しく適切なご指導を、学生にはより一層の部活動への真摯な参加をお願いしたい。そして、伝統ある高々運動部が今以上に発展することを期待している。



応援部
正弘 藤井 (81期)

昨年は恒例のOB会ゴルフコンペが実施できず、楽しみにされていた先輩方には申し

訳なく思っております。今年のゴルフコンペは秋に予定しておりますので、ひとりでも多くご参加をお待ちしています。

さて、私事ですが、次男がこの春卒園し、その卒園パーティーの席で、卒園児と保護者、保護者のなかで同窓の先輩がおられ、お願いされたことでしたが、我が子も含め卒園児たちへの贈る言葉として、声を張り上げてエールを贈りました。高校を卒業してからも、同窓の集まり以外に、同期の結婚披露宴の席でも何度かリーダーを行う機会がありました。我が子の前で行うのは初めてでした。それからしばらくは、家の中で、子供達が「ブレイブリー」と真似をしていました。

「エールを贈る」。学生の頃は部活動として形式的に行っていましたが、友にそして我が子に私からの心からの激励として、高々応援部のリーダーが「贈る言葉」にかえられることを有り難く感じています。



卓球部
高期 堤 (71期)

卓球部OB会は、毎年定例的に新年会とゴルフコンペを行っています。昨年は深沢OB会長が還暦を迎えられたので、ゴルフコンペと共に「祝う会」を行いました。翠巒体育会ホームページ上に記事を掲載してありますので、ご覧頂いた方も多いと思います。

ここ数年、ともすればゴルフ部のOB会かと思われような活動状況でしたが、昨年2月から毎月第一、干曜に有志が集まって卓球を行っています。

開催場所は、高見沢先輩の好意により、マツ

ヤの研修所を利用させていただいています。丸山団地の上にある施設は、見晴らしが良く、風呂から夕焼けを見ていると、何とも良い気分になります。原則として、午後4時から行っていますので、都合のつく方は参加して下さい。今年の関東オープンで優勝した佐々木君のような強豪から数十年ぶりにラケットを握ると言う人まで、幅広く参加していますので、同レベルの相手が見つかると思っています。気楽に出かけて下さい。



硬式野球部
功期 江原 (77期)

私供OB会は、飯島勇会長の下、平成十二年度の活動を左記の様に行いました。

一月、本校野球部OB(大学、社会人等で活躍された方)を講師に招き、現役生徒に対し、技術面、精神面等講習を開催いたしました。二～五月にかけては、春季大会の応援、保護者会総会出席、遠征試合支援等と積極的に活動し、来る七月の総会に向け平行して準備を進めて行きます。総会には大先輩を始め若いOBを含む多数の出席をいただき無事に総会を終了させていただきました。

七月といいますが、夏季大会(甲子園大会の予選)が始まりますが、OB会としては、本校の試合の日時に合わせて毎年役員が野球場入口にて入場券を無料で配布し、昨年も多数のOBの方々が忙しい中応援に来ていただきました。今年も行う予定です。

十月、毎年恒例となっている高々前高OB対抗戦が行われました。硬式ボールを使用している試合ですので参加者全員が現役の時に戻った様な素晴らしいプレーを披露し熱い

高崎白衣大観音・高野山別格本山
関東八十八カ所霊場一番札所

慈眼院

橋爪良恒(バスケット部・44期)
橋爪良真(バスケット部・75期)
TEL:02713321226
FAX:02713321613



柔道部
吉二 鳥居 (73期)

一日が懇親会にて終了いたします。又、ゴルフコンペも毎年行っております。以上簡単ではありますが一年間の活動報告とさせていただきます。

平成十二年一月三日、正月気分のみならず、恒例のOBと現役の合同練習会を行いました。午後二時からの練習には現役選手よりも早く高道場に顔をだし、現役選手の顔を見るのを楽しみにしている先輩の姿もありました。前半の部の練習会では毎日練習を重ねている現役選手のスタミナにOBも音をあげることにしきりでありました。しかし、後半の部の対抗試合ではキャリアに勝るOBが力量を発揮しました。

県外で活躍しているOBも多く、なかなか現役選手に胸を貸す場面は得にくいところですが、春・夏・冬等の長期の休みに行われる合宿などでは先輩に、直接身体で稽古をつけていただければ有り難いことだと思います。選手にとっては実力向上もさることながら、生涯の思い出の場面になるのではないかと思われます。

合宿稽古が終わると、場所を変えて、新年総会並びに選手激励会が行われました。関口茂樹会長の挨拶に始まり、今井孝造先生の挨拶に至ると俄に、諸先輩方のお顔が少年のそれに変わっていく、という不思議な現象が本年もまた例外なく起きました。そして尽きるこのない旧交に花が咲き、時間のたつのを忘れてしまいます。

本年も、新年総会が無事終了し順調に活動がスタートしました。



バスケット部
橋爪 良真 (75期)

平成12年度OB会の活動は、特別な行事はなく、例年のごとくありました。OB会総会に始まり、市民大会への有志の参加、元日の現役と若手OBとの交流試合、卒業生送別会への参加などでした。OB会の諸先輩、後輩たちは全国の各分野で活躍しており、すが、事務局周辺の12年度の話題としては、翠鸞体育会前会長の岩田武雄先輩(53期)が母校中央大学バスケット部の監督に就任され、友松敬三先輩(61期)は高崎市議会議長を務められました。



ラグビー部
上羽 正弘 (72期)

ラグビー部OB会は、本年一月六日高崎ニューホテルにおいて新年総会を開催。昨年度OB会活動および決算報告ならびに本年度事業予定が発表され、すべて承認された。また、総会に先立ち恒例となっている現役対OB戦が行われ、白熱したゲームが繰り広げ

られた。三月一日には卒業式のあと、二年生部員に対して、木村OB会会長よりOBとなつた証として鷹をあしらつた錦糸のエンブレムを贈呈し、卒業を祝つた。

ラグビー部OB会の今年度の主な活動としては、四月三十日に元慶應義塾大学ラグビー部監督の黒沢氏(昭和四十九年卒)を招き、豊岡グラウンドで現役部員への技術指導をお願いした。さらに、八月には木村会長が菅平合宿を訪問し、現役部員への戦術的な指導および激励を行う予定であり、花園出場に向けてOB会拳挙げての支援体制強化を計画している。



ソフトテニス部
浦野 克彦 (顧問/78期)

OB会の活動としては、昨年も例年通りお盆の日曜日にOB現役の交流試合を実施し、夜に総会と懇親会を長谷川ホテルで行いました。交流試合では、大先輩から最近卒業した若手まで幅広く集まつていただき、楽しい汗をかくことができました。体力と体型の衰えは隠すことはできませんが、時折見せる往年を髣髴とさせるプレーにおおおいに盛り上がりました。夜は、高校時代の思い出話とともに現況を報告し合つて旧交を温めました。今年も同じ時期に開催する予定ですので、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

今年には新入生が十六名入部し、また実績も実力もある生徒ばかりで、活気にあふれて練習をしております。加えて、井坂奨先生(太高卒)また現役プレーヤー(です)を新たに迎え、柴崎先生とともにソフトテニス経験のある顧問三名とスタッフも充実しております。インターハイ団体出場を目指して頑張りたいと思

ます。ほぼ毎日練習していますので、お近くにお越しの際は是非お気軽に母校のコートに越してください。



サッカー部
国峯 賢一 (74期)

今年も一月二日の初蹴り会と、二月の総会、新年総会が無事行われ、十四名の百期卒業生を迎え、総勢五百四十名の所帯になりました。翠鸞クラブは、インターハイに出場した年代が加入し、群馬県社会人サッカーの二部リーグへ念願の復帰を果たしました。ミドル翠鸞クラブは七十七期の上村千秋くんが幹事となり、高崎サッカーリーグで安中市にある西毛グラウンドを主会場にして、五十代から四十代のメンバーで楽しくゲームをしています。ユニフォームが体に合わなくなってきたので、新しいのを作ろうとサッカーくじを買っていますが、当たった話はありません。必ず試合に出場できますので、参加希望の方はご連絡ください。

恒例となりました、高々前高サッカーOB会交流試合を八月十一日に前高グラウンドで行います。是非ともOB会会員には、奮つて御参加頂き、真夏の日差しの中で楽しんで頂きたく御願いたします。

最後に、現役サッカー部への物心両面に渡る御援助を心からお願い申し上げ、現役の練習や試合に応援の程宜しく御願致します。

平成12年度のOB会活動報告ですが、昨年は新しい顧問の先生に塚本泰弘氏を

迎え、歓迎会を開きました。塚本先生には、益々の高々バレーの発展の為に指導をお願いするとともに、OB会からは金銭面、物質面の援助を行うことをお約束致しました。今後の現役生達の活躍に期待も高まります。

また昨年、翠鸞クラブは、健在ぶりを見せられました。選手の高齢化は年々進んでゆき、11年連続優勝のあといつまで現役を続けてゆくのかわ、体力に不安を感じながらも、県大会決勝戦では翠鸞マジックともいべきスピードの連続で、中々OBクラブを簡単に退け、2年連続13回目の群馬県クラブカップを手に入れました。8月の全国大会(山口県)では予選敗退したものの、全国の強豪相手に一歩も引けをとらない善戦を見せてくれました。

OB会も近年、休止に近い状態が続いていますが、翠鸞クラブの活躍に習い、来年度は、内容盛り沢山の報告をしたいと思います。



水泳部
永尾 俊弘 (70期)

シドニーオリンピックにおける日本水泳陣の活躍の効果が成人の水泳競技に対する関心も高まり、昨年あたりからマスターズ水泳大会の参加者が増えております。水泳部OB会も酒を酌み交わし旧交を温めるばかりでなく、サッカー部やバレー部OB会のように翠鸞クラブを結成しマスターズ競技に参加したいと思っております。実際、二〇〇〇年度は、県実業団水泳大会五〇m平泳ぎ(40歳位)優勝、一〇〇m平泳ぎ(40歳位)3位、県都市対抗水泳大会五〇m平泳ぎ(40歳位)2位、マスターズ水泳大会(ショートコース)二五m平泳ぎ(45歳位)優勝、五〇m平泳ぎ(45歳位)2位、

五〇m平泳ぎ(40歳台)3位、一〇〇m平泳ぎ(40歳台)3位等々の活躍されている猛者もおり、本年は翠巒クラブとして是非大会に参加したいと思っております。

水泳部OB会の定例行事として、現役の夏合宿に合わせたOB会総会と新年会がありますが、いずれも多数のOBの方が毎年参加されております。



ここ数年間部員不足で悩んできましたが、今年度は新入生が十二名入部し、三

生まで入れると二十二名の部員となりました。道場が練習するには狭く感じられるほどとなり、更に道場が活気づいてきました。

恒例の活動としては一月三日の新年の稽古会にOBが今年も大勢参加されました。現役とOBとの試合では今年もOBに軍配が上がりました。現役の生徒でもOBに勝てる者がでてきました。その日の夕方、ビューホテルで総会及び新年会が行われました。また夏期及び春期合宿での夜の稽古ではOBのご指導を頂きました。

昇段審査では、今年は七十五期の角田芳昭先輩が七段に昇格されました。

また笠井先輩(代四期)吉野先輩(第六八期)が、十一月に大坂で行われました健康福祉祭の剣道大会に群馬県代表として出場され、健闘されました。

今年度は剣道部創立五十周年にあたります。十月十三日に、メトロポリタンホテル(駅ビル)にて記念式典を行うことに決定し、事務局を中心に準備を進めています。



陸上部OB会は、昨年度、会長が横尾信夫さんから後藤次一さんにバトンタッチし、

新体制で活動を始めました。現役選手の支援とOB会員相互の親睦を主な活動目的としていますが、近年、インターハイや国体で活躍する選手が多数でてきており、うれしい悲鳴を上げています。また、一昨年から例年行っている「小林馨先生を囲む会」は、先生が今年度高崎経済大学附属高校の副校長になられたのでその祝賀会として7月に行うことになりました。それに伴い、OB会総会は、今年度は8月にずれ込んで開催される予定となっております。8月初旬にはインターハイがありますので、その激励は、会長以下有志により、7月中に行う予定です。予定ばかりになつて

先輩がんばってます。

サッカー部

須田 修司



我々サッカー部は、二年生二十名、二年生十五名、一年生二十四名の計五十九名で、坂田先生をはじめ、丸山先生、塩原先生の熱心な指導、保護者会の陰の支えの下、日々高い意識を持ち練習に励んでいます。

今年度は、新人戦では良い結果を残せませんでした。持ち前の底力で段々と実力を上げてきました。そして今後は、インターハイで、全国大会出場を目標に全員が一丸となつて頑

翠巒体育会 ホームページ

<http://www5.wind.ne.jp/t2suiran/>

翠巒体育会のホームページには、翠巒体育会からのお知らせと、各クラブの活動報告を掲載しています。

体育会の活動記録／予定の広報が第一義ですが、各部の連絡網として機能できれば幸いです。会員のご意見を書き込めるコーナーもありますので、ご利用をお願いします。



しまいましたが、これで平成13年度の陸上部OB会の活動状況報告を終わらせていただきます。

渋谷先生の御指導と保護者会の支えの下、毎日技術と共に精神の向上のため練習に励んでいます。

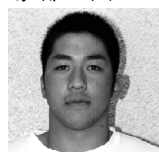
近年では部員が少なくチーム練習もままならない時もありましたが、今では部員も増え、活気のある内容の濃い練習を各自で積極的にこなしています。

また、バレーボールとは一人ではできないスポーツであり、チームワークなどのチーム力で勝敗を決すると言っても過言ではありません。バレーボールを通じて私達は助け合いの精神やスポーツマンの礼儀を学んでいます。

今年度の目標は関東大会、そしてインターハイ出場です。そのためにもこれからも御指導、御声援よろしく、お願い致します。

ラグビー部

福嶋 大



我々高崎高校ラグビー部は十七年ぶりの花園出場を果たすべく、日々練習に励んでいます。

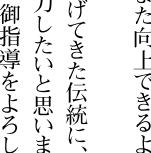
今年度は新人戦3位、7人制大会優勝と好成績を残してきました。しかし、先日行われた春の総体で惜しくも準々決勝で宿敵前高に敗れてしまい、部員全員が口では言い表せぬ悔しさを味わいました。

この悔しさをバネに、今は高い目標を持ち、厳しい練習に取り組んでいます。まず第一の目標は九月の定期戦での借りを前高に返すことです。そして、最終的には、農一を倒し花園に出場します。

部員全員が一丸となり、ラグビー部の伝統と、高崎高校ラグビー部のプライドにかけて、他のどのチームより強い勝利への気持ちを持ち

バレーボール部

芹澤 雄樹



我々バレーボール部は、現在三年生五名、二年生八名、一年生十二名で塚本先生をはじめ宮川先生、

張ると同時に、人間性もまた向上できるよう努力したいと思えます。

最後に、先輩方が築き上げてきた伝統に、さらなる飛躍を目指し努力したいと思えますので、これからも御支援、御指導をよろしくお願ひします。

えて、新たな伝統を築きます。
OBの皆さんの築き上げた伝統にさらに磨きをかけられるよう努力したいと思っております。これからも応援よろしく、お願い致します。

軟式野球部

須藤 佳之

我々軟式野球部は、現在部員四十名のもと、八千代グラウンドにて、週三回という短時間集中型の練習を行っています。我々は、目標を関東大会に決めてがんばってきましたが、新人戦の結果は一回戦敗退という結果に終わりました。その時、自分達で反省を行い、根柢のない自信があったことを反省し最後の大会である春の大会に向けて、冬は走り込み、野球ができる時期になると、声を出し合い、悪い点を注意し合つて大会へ意気込みを高めてきました。そしてそれぞれがチームメイトを信頼し合える最高のチームを作りあげることができました。



この春の大会は最後なので、今まで積み上げた力をふるに発揮し、軟式野球の定義である『楽しくやる野球』をやるようがんばりますので、先輩方の御声援宜しくお願いします。

ソフトテニス部

小池 昌弘

我々ソフトテニス部は、三年生七名、二年生四名、一年生十六名の計二十七名で、浦野先生、井坂先生、柴崎先生の熱心な御指導のもと、部員一人一人が高い目標と強い意志を持ち、より



高いところを目指し、積極的に日々の練習に励んでいます。
前年度は、部員数の少ない中、先輩方の輝かしい歴史に続くべく、照りつける強い日差しと、熱気で満ちたコートの中、部員全員が一丸となつて個々の向上に努めてきましたが、満足いく結果を得ることができず、悔しい思いをしてきました。しかし、その苦い思いをバネにし、過去の雪辱を晴らすため、これからも部全体の士気を高めていこうと思つていきます。

先輩方が築き上げてきた伝統に、さらなる飛躍をすべく、切磋琢磨し、努力したいと思つたので、今後とも先輩方の御支援、先生方の御指導をどうぞよろしくお願い致します。

山岳部

林 将宏

高々山岳部は、二年生四名、一年生二名の計六名で活動しています。少ないようではありますが、昨年と比較しても部員は増えていて、今後が楽しみです。一学年プランクが空いたことと、部員のほとんどが、まだ始めて一年もたっていないことで、山に登ることを考えるとまだまだ未熟です。日々の体力トレーニングに加え、地図の読解、天気図・道具の扱い方、料理、救急法など、登山に必要な様々な知識の習得に努めています。そして、自分達の得た知識を実際に試す場として、月一回くらいのペースで山に登っています。



目標としては、実力がついてくる今年の二期期あたりから、大会で結果を残すことです。応援よろしく、お願いします。

卓球部

内田 賢介

我々卓球部は素晴らしい伝統を持ち、現在では西沢・品川両先生の御指導の下、総勢二十九名で活動しています。
ここ二、三年は団体戦で足踏み状態が続いていますが、今年には部員一人一人の卓球に対する意識が高く、短い時間ながら集中・工夫して、練習に取り組み、各種大会にも積極的に出場し、実力を付けてきています。
最後に、一昨年、昨年の県高校総体で先輩達が達成できなかったベスト8を達成し、さらにも上を目指す為に部員全員一丸となつて、総体・インターハイ予選に向け、ますます努力を積み重ねていきますので、今後とも御声援をどうぞよろしくお願い致します。



我々柔道部は、三年生五人、二年生五人、一年生四人の計十四人という少数ながらも、日々稽古に励んでいます。御指導いただいている鳥居先生は、高々柔道部の大先輩であり、現在は顧問をして四年目になります。先生の自身の経験に基づいた練習は「短期集中」という高々らしく充実したものです。昨年はその成果が出て、団体・個人共に関東大会に出場することができました。そして今年も関東大会に出場できるように、さらにその後に控えている「日予選」に向けて頑張っています。
先輩方が築き上げて来た伝統に、さらなる

柔道部

藤井 貴将



飛躍を目指し今後とも努力しますので、応援よろしく、お願いいたします。

スキー部

黒田 英孝

白銀の嶺へ二本のシニョールを刻みながら滑るスキー。皆さんはスキーと言うと一色単に考えがちですが、現在のスキー界には様々な種目があります。
私達が主に取り組んでいるのは、アルペンです。昨シーズンは惜しくもインターハイに出れなかったものの、関東大会には三名が出場し、内二名は、全国レベルの大会に数々出場しました。又アルペン以外にも成績があり、フリースタイルにおいては、全日本カービング選手権で予選十三位通過、準決勝進出を果たしています。現在は来シーズンに向けて、爆走中です。
様々なトレーニングで全身を鍛え、磨き澄まされた精神力を養い、昨シーズンよりもさらなる成績の向上を目指し頑張っていきたいと思つています。二〇〇二年、全国を制すのは我々高崎高校スキー部です！こんな地味にやっている部活ではありますが、是非、応援してください。



TDC
TOMIDOKORO DENTAL CLINIC
富所歯科医院
富所 武宣 (応援部・82期)
群馬県高崎市矢島町1番地
☎027-353-3322
診療時間 (日・祝日休診)
月・火・木・金 9:30-13:30 15:00-20:00
水・土 9:30-13:30 15:00-17:00
訪問診療もしております。

硬式野球部

武井 遼太郎

現在、硬式野球部は三年生十八名、二年生十六名、一年生二十二名の計五十六名で、「頭を使って野球の面白さをよく考えた野球」を特徴とした高々野球で、甲子園出場という目標を持って日々練習に励んでいます。



ここ数年、高々野球部の人数も増え、ポジション争いの中で切磋琢磨して一人一人が力をつけるといういい雰囲気もできており、短時間の中でいかに濃い練習ができるかが勝負につながると意識し、集中力を高めようと心掛けています。少ない練習時間の中から生まれる集中力を持つたいわゆる進学校独自の強さというものを武器とできるような頑張っています。

私達が野球をするにあたっては大須賀監督、毒島部長、樽見先生、関口先生をはじめとし、両親、OB会の方々や後援会の方々にお世話になっていることを忘れず、それに答えるためにも頑張っていこうと思っています。

剣道部

潮 真也

我々剣道部は三年生四名、二年生六名、一年生十二名の計二十二名で、日々力を合わせて稽古に励んでいます。



日々の練習では顧問の戸塚先生に熱心に指導していただき、部員一人一人も短期集中を意識した上で稽古に励んでいるので着実に実力をつけてきていると思います。冬の

新人戦ではベスト8となり総体への弾みをつけることができました。

今年秋田、栃木への遠征を実施し、全国の強豪を相手に試合の運び方や技術を学び、吸収することができました。校内合宿ではOBの方や保護者の方にお世話になり、体力、精神力を養いました。それが今、自分達の糧となり自信となっています。

これから行われる総体、インターハイ予選では是非ともベスト4に入り、今の剣道部の目標である「関東大会出場」を達成したいと思っています。悔いの残らないよう精一杯頑張りますのでこれからも御支援よろしくお願い致します。

弓道部

清水 淳也

弓道部は現在三年生五名、二年生二十名、一年生八名、計三十三名で、関東大会・全国大会出場を目標に練習に励んでいます。



練習では特に一般の講師の方もお招きしていないので主に先輩が後輩に技術を伝えるなどお互いにアドバイスをし合ったり、試合形式で練習したりしています。

近年は県内の大会で上位に入賞する者や関東大会に出場する者もいて、部全体のレベルも向上しています。今年他校との練習試合を多く組み、できるだけ公式試合に近い雰囲気の中で練習することにより、精神的にも技術的にも向上し、全国大会出場もできると思います。

今後は新人戦や高校総体で、団体・個人とも上位入賞し、最終的には全国大会出場を目指します。

目指し、部員一丸となりがんばっていきたくと思っています。

硬式テニス部

清水 雅弘

テニス部は、現在三年生十六名、二年生二十一名、一年生三十五名、計七十二名で活動しています。今年度の総合体育大会では、シングルスダブルスともにベスト16で終わってしまいましたが、県総体の団体戦では第3位、インハイ個人戦では第3位と頑張っています。



日頃の練習では部員の数が多いので基本のバターン練習をくり返し行い、試合が近くなると選手中心の試合形式練習を行いました。西毛地区予選では、シングルス5名、ダブルス2組が通過し本線に進出することができましたが、私達としては納得できない結果に終わってしまいました。

今後はまず目前に迫っているインハイ団体戦に向けて猛練習を行い、好成績を残せるように部員一丸となって頑張っていきたいと思っています。これからも御声援よろしくお願ひします。

水泳部

江原 享平

水泳部は現在、三年生十一名、二年生五名、一年生一名の計十六名で活動しています。昨年度のシーズンオフから、以前まで行われていた河川敷での球技を止め、部員一人一人の泳力向上を至上命題に掲げ、浜川での週一回程度の水



泳練習に加えて筋力トレーニングやランニングを行い、総合的な体力の向上に努めています。同時に、練習の計画を部員自ら考えて決定・運営していくことで、泳力向上に向けた意識の向上を図っています。

高崎高校

ラグビー部OB会

会長 木村 洋 (59期)

主に参加する大会が、六月の関東予選会、八月の高校総体、新人戦の計三回と少ないため、その中で最高の結果が残せるよう、日々密度の高い練習に励んでいます。特に、関東大会につながる関東予選会の前には、六泊七日にわたる強化合宿を行って、上位入賞を目指します。

部員の減少による選手層の希薄化を食い止めながら、泳力向上という目的を達成するために、これからも意識を高く持ちつつ練習に励んでいきます。

応援部

田中 亨

我々応援団は、現在十五名で日々練習に励んでいます。



先輩方から我々第五十代に伝統を引き継いで以来、高々生の志気を高めるべく、各諸行事、集会等での校歌・翠巒の斉唱、野球応援、そして定期戦での応援のリードと

いったことに団員一丸となつて取り組んでおります。そのため、生徒をリードするのに相応しい器となるよう日々努力を重ね、力量を高めております。やはり応援団に志を置こうとする者は、少し異色ではあります。故に応援団に対する考え方も十人十色でありまして、時折意見が食い違う時もあります。そういう時は、応援団員としてのあるべき姿を確認し合った上で、よく話し合い、より強い団結を目指して、解決の方向へ進むように努力をしております。

例年と同じく、我々の唯一の晴舞台である定例リーダー公開祭を催す予定であります。披露するにあたり恥じのないよう練習を重ねていく次第であります。つきましては先輩方の御支援を宜しく御願ひ申し上げます。

陸上競技部

柳澤 健人



我々陸上部は、インターハイ総合優勝の経験を持つ高橋先生を中心に、関根先生、田中先生、OBの方々の下、全国制覇を目標に日々練習に励み、また、精神力・人間性の向上に努めています。

近年は、全国大会や関東大会という高いレベルの中で上位を争えるほど部全体として力をつけてきており、また、昨年は、高々初となる関東駅伝出場を果たし、新たな歴史を刻むことができました。今後は、部員一人一人が高い意識レベルを持ちながら練習に取り組んでいくことが、さらに上のレベルでの争いができるかどうかだと思います。

最後に、我々の活動を陰で支えて下さって

いる先輩方、周囲の方々に感謝し、その御支援に応える為に頑張りたいと思っておりますので、今後とも応援を宜しく御願ひ致します。

空手道部

関口 裕信



我々空手道部は、現在三年生三名、二年生九名、一年生六名の計十八名で日々練習に励んでいます。今年度は、練習内容に試合を想定したものを多く取り入れ、日頃の練習の中で常に緊張感を持つよう心がけています。また、部員数も比較的恵まれているため、部員一人一人がお互いに刺激し合い、部全体のレベルが順調に向上してきていると思えます。そしてOBの方や先生方にお世話になり、技術を伸ばすとともに精神的な面においても成長することができ、これからの自信につなげることもできました。

大会での成績は、秋の新人戦でのベスト8がやっとだったので、次の総体はその上のベスト4となり、関東大会出場を勝ち取れるように空手道部一同、気合いを入れて頑張りますので、これからもご支援よろしく御願ひ致します。

バドミントン部

戸塚 裕二



我々バドミントン部は、今年度から部へ昇格したばかりの新しい部です。部員は現在三年生八名、二年生六名、一年生十一名で、毎日一生懸命練習に励んでいます。

練習は第一体育館において、顧問の三浦先生、中村先生の御指導の下、毎日七時近くまで行っています。その成果も実り、今年度の県総体では、個人戦の本戦とも言える四回戦出場者を過去最高の三人出すなど、着実にその実力を向上させています。また高崎市内の大会では優勝を収めることができ、部全体の大きな自信となりました。

今後は、県大会上位入賞を目指し、今以上に練習に力を入れ、部員一人一人の実力の向上に努めたいと思っておりますので、御支援よろしく御願ひ致します。

バスケットボール部

栗田 雅彦



我々バスケットボール部は、立見先生を中心に、関口先生、今年桐女へ移動となった町田先生の後を継いだ篠原先生の御指導の下、毎日の限られた時間の中で部員同志が互いに競い合い、日々練習に励んでいます。またウエイトレニングも取り入れ、身体の強さと共に精神力の強さも養っています。

新人戦では惜しくも優勝を逃し、二位という結果でした。あれから四ヶ月間、チームディフェンスの強化に励み、遠征などで全国レベルのチームと試合をして経験を積み、チームの団結力も強まりました。今年の高高は、県で優勝を争うチームの中で平均身長が最も低いかもしれませんが、身体の強さ、運動量、そして精神力でカバーして県総体と最終目標であるインターハイを目指して頑張りたいと思っておりますので、今後とも応援を宜しく御願ひ致します。

高崎高校

柔道部OB会

会長 関口 茂樹(63期)

高崎高校

ソフトテニス部OB会

会長 下山 万吉雄(63期)

高崎高校

水泳部OB会

会長 新谷 恭一(54期)

高崎高校

陸上部OB会

会長 後藤 次一(68期)

平成12年度 運動部活動状況

陸上競技部

北関東大会	千五百m	3分58秒21	中山(陽)	4位
棒高跳	4m70	稲垣		2位
全国高校総体	千五百m予選	3分59秒27	中山(陽)	11位
棒高跳	4m60	稲垣		8位
学校対抗	四百m	51秒35	樋口	5位
八百m	1分56秒30	樋口		3位
四百mH	1分58秒45	中山(陽)		4位
四百mH	54秒19	北嶋		1位
棒高跳	56秒48	土屋		6位
棒高跳	4m60	稲垣		2位
千五百m	4分00秒50	中山(拓)		5位
百十mH	4分03秒44	中山(陽)		6位
三千mS.C	16秒16	北嶋		5位
四×四百mR	10分00秒13	柳澤		5位
樋口・土屋・北嶋・稲垣	3分24秒06			4位
走幅跳	6m64	稲垣		5位
槍投	50m86	高田		4位
国体	少年B八百m	1分56秒70	中山(拓)	6位
少年共通棒高跳予選	4m60	稲垣		3位
新人大会	四百m	50秒62	樋口	3位
八百m	1分58秒30	樋口		1位
千五百m	4分02秒43	中山(拓)		1位
四百mH	4分07秒22	高橋		3位
五千mW	53秒78	北嶋		1位
五千mW	24分34秒33	柳澤		1位
五千mW	25分48秒21	新井		2位
関東高校選抜新人大会	八百m	1分57秒56	樋口	5位
千五百m	4分04秒05	中山(拓)		1位
四百mH	55秒83	北嶋		7位
五千mW	24分21秒21	柳澤		6位
県高校駅伝大会	2時間19分14秒			6位
関東高校駅伝大会(初)	2時間17分03秒			38位

新人駅伝大会 1時間40分17秒 5位

バスケットボール部

県総体

1回戦 高崎110-36 前市高

2回戦 高崎86-48 伊工

3回戦 高崎90-47 前南

準々決勝 高崎90-55 前高

準決勝 高崎51-74 樹徳

インターハイ予選

1回戦 高崎93-51 伊東

2回戦 高崎98-34 伊市高

3回戦 高崎76-39 中之条

準々決勝 高崎65-44 前商

準決勝 高崎54-59 前商

ウインターカップ県予選会

準決勝 高崎69-67 樹徳

決勝 高崎59-88 前商

県新人大会

1回戦 高崎20-0 松井田

2回戦 高崎79-33 桐工

3回戦 高崎122-47 利根実

ブロック決勝 高崎75-49 前東

決勝リーグ戦 高崎78-86 樹徳

高崎92-70 太田工

高崎74-43 前商

2位

新人大会(春高バレー予選)

4回戦 高崎2-0 沼田

準々決勝 高崎2-0 前商

準決勝 高崎0-2 伊東

3位

ソフトテニス部

関東大会

団体

インターハイ予選

2回戦 高崎3-0 尾瀬

3回戦 高崎0-2 館林

個人

中川・山口組

個人

中川・山口組

個人戦

中川・山口組

1回戦

新人戦

団体

1回戦 高崎2-1 青翠

2回戦 高崎0-2 農二

個人

大林・小佐野組

伊勢・富所組

伊勢・富所組

ベスト8

一年生大会

伊勢・富所組

全国選抜大会県予選

1回戦 高崎1-2 館林

3位

決勝 高崎19-7 県央 優勝

インターハイ予選

2回戦 高崎1-0 藤工

3回戦 高崎4-0 前南

4回戦 高崎1-2 前橋育英

1年生大会

1回戦 高崎3-1 渋川

2回戦 高崎5-0 藤工

3回戦 高崎5-0 太商

準々決勝 高崎1-0 西邑菜

準決勝 高崎0-0 高経附(PK3-4)

選手権県予選

一次予選

2回戦 高崎2-0 利根商

3回戦 高崎7-1 高東

二次予選

4回戦 高崎1-5 前橋育英

新人戦

1回戦 高崎4-0 関学附

2回戦 高崎1-1 前東(PK6-7)

バレーボール部

インターハイ予選

4回戦 高崎2-0 館商工

準々決勝 高崎2-0 中之条

準決勝 高崎0-2 伊東

西毛地区大会

2回戦 高崎2-0 高工

準決勝 高崎2-0 農二

決勝 高崎2-0 高北

国民体育大会(池谷友宏が出場)

1回戦 群馬選抜チーム3-0 広島

2回戦 群馬選抜チーム2-3 山梨

秋季大会

2回戦 高崎2-0 伊工

3回戦 高崎2-0 館商工

準々決勝 高崎2-0 高北

準決勝 高崎1-2 桐商

3位

卓球部

インターハイ予選

2回戦 高崎3-0 高経大附

3回戦 高崎0-3 藤工

新人大会

2回戦 高崎3-2 利根実

3回戦 高崎0-3 渋川

全国大会予選

予選L

高崎12-5 関学

高崎72-0 前商

高崎35-0 高商

高崎0-44 前橋

5位

決勝T

1回戦 高崎38-5 桐生

準々決勝 高崎5-40 農二

3位

新人大会

1回戦 高崎40-19 樹徳

準々決勝 高崎38-5 桐生

準決勝 高崎5-40 農二

3位

7人制大会

1回戦 高崎50-0 伊勢崎興陽

準々決勝 高崎43-0 前東

準決勝 高崎40-5 樹徳

水泳部

関東高校水泳大会(横浜国際プール)

二百個メ 新井 2分17秒41

四百個メ 新井 4分51秒38

二百個 黒田 2分06秒03

四百個 黒田 4分24秒60

八百R 北村等原黒田新井8分26秒38

県高校総体(県立敷島公園水泳場)

四百個 新井 4分23秒75

二百個 新井 4分25秒41

四百個メ 新井 5分14秒19

二百個 黒田 2分04秒40

百平 柳澤 1分13秒55

百バタ 五十畑 1分05秒22

百背 松井 1分07秒96

二百背 松井 2分31秒20

四百R 五十畑中島高麗江原4分28秒03

八百R 等原北村黒田新井8分44秒76

四百メR 松井柳澤五十畑江原4分34秒94

県高校新人大会(県立敷島公園水泳場)

二百個 笠原 2分08秒19

3位

二百自	北村	2分13秒	5位
二百個メ	笠原	2分28秒	1位
百自	北村	59秒	30位
百平	柳澤	1分14秒	35位
	柳澤	2分49秒	02位
	柴田	3分17秒	10位
	深澤	3分26秒	22位
百バタ	五十畑	1分04秒	76位
	松井	1分08秒	08位
	中島	1分19秒	77位
二百背	松井	2分33秒	53位
二百R	笠原	1分49秒	68位
	江原	1分29秒	87位
	中島	4分29秒	87位
	柳澤	4分47秒	64位
	松井	4分47秒	64位

柔道部

関東大会	団体戦・個人戦(桜沢)出場		
インターハイ県予選			
団体戦			3位
個人戦	66kg級 桜沢		優勝
インターハイ	個人戦66kg級(桜沢)出場		
新人戦			団体ベスト8
全国高校選手権県予選			
団体戦			ベスト8
個人戦	梶澤		3位
学年別柔道大会			
2年の部	梶澤		優勝
1年の部	100kg級 今井		3位
	73kg級 下山		3位

剣道部

高校対抗剣道選手権			
1回戦	高崎4-0前東		
2回戦	高崎1-1前商		
新人戦			
1回戦	高崎3-2中之条		
2回戦	高崎4-1高東		
3回戦	高崎1-3農二		
		ベスト8	

軟式野球部

全国高等学校軟式野球選手権大会県予選			
1回戦	高崎3-10前橋		
定期戦	高崎0-1前橋		
新人大会兼秋季関東高等学校大会県予選			
1回戦	高崎3-8桐生		

硬式テニス部

インターハイ予選			
団体戦			ベスト8
個人戦ダブルス	小田・桜井組		ベスト8
新人戦			
団体戦			ベスト8
個人戦ダブルス	都築・板橋組		3位
	シングルスを都築		3位
	板橋		ベスト8

空手道部

インターハイ予選			
団体組手	1回戦 高崎2-3前高		
新人大会			
団体組手	3回戦 高崎0-4前工		

硬式野球部

春季関東大会予選			
2回戦	高崎9-8前西		
3回戦	高崎4-3常磐		
4回戦	高崎3-4桐一		
全国高校野球選手権予選			
2回戦	高崎4-1育英		
3回戦	高崎3-10伊商		
秋季関東大会予選			
2回戦	高崎1-6前南		

山岳部

集中登山大会参加

スキー部

インターハイ予選			
関東大会予選	黒田GS19位・SL21位		
鎌田SL27位	黒田GS20位・SL20位		
関東大会	黒田		
新人大会	松橋		
春季大会	黒田		
	松橋		
	黒田		
	松橋		
	GS15位		
	GS15位		

弓道部

関東個人選抜選手権県予選会			
山中	7位		
関東大会出場			

バドミントン部

インターハイ予選

第36回高校総体成績(13年度)

新人戦			
1回戦	高崎1-3富実		
団体戦	1回戦 高崎3-0渋川		
	2回戦 高崎0-3桐南		
ダブルス	小此木・中島組		
	3回戦進出		
松井・相馬組	3回戦進出		
シングルス	相馬		
	2回戦進出		
1年シングルス	加藤・中嶋		
	4回戦進出		
清水	3回戦進出		
	金井・佐藤		
	2回戦進出		

総合順位 第3位

バスケットボール部

2回戦	高崎123-31藤岡		
3回戦	高崎104-56前南		
4回戦	高崎92-44館林		
準々決	高崎86-62沼田		
準決勝	高崎80-84太工		

卓球部

1回戦	高崎3-1高工		
2回戦	高崎1-3中之条		

バレーボール部

4回戦	高崎2-1桐生		
準々決	高崎0-2前橋		

ラグビー部

準々決	高崎7-9前橋		
-----	---------	--	--

サッカー部

1回戦	高崎4-1富岡		
2回戦	高崎3-0中央		
3回戦	高崎4-1泉央		
4回戦	高崎2-1常磐		
準々決	高崎2-3育英		

ソフトテニス部

2回戦	高崎3-0渋工		
3回戦	高崎2-1利根商		
準々決	高崎1-2沼田		
大林小佐野組	相沢伊勢組		
	9位(関東大会へ)		

バドミントン部

柔道部

1回戦	高崎1-2太田		
団体	2回戦 高崎5-0勢農		
	3回戦 高崎5-0渋川		
準々決	高崎2-2農二(代表勝)		
準決勝	高崎0-2前商		
	3位(関東大会へ)		
	2位(関東大会へ)		
個人	梶澤		

剣道部

2回戦	高崎2-3吉井		
-----	---------	--	--

軟式野球部

1回戦	高崎1-5桐生		
-----	---------	--	--

弓道部

決勝トーナメント			
	4位(関東大会へ)		

硬式テニス部

2回戦	高崎3-0利根実		
3回戦	高崎2-0新島		
準々決	高崎2-0太東		
決勝リーグ	3敗		

空手道部

1回戦	高崎2-2高商(内容負)		
-----	--------------	--	--

山岳部

9位			
----	--	--	--

水泳部

4位			
----	--	--	--

陸上競技部

四百m	5位(樋口・八百m 2位(樋口)		
五千m	W 1位(柳沢) 2位(新井) 3位(福田)		
五千m	2位(奥)・四百m障 1位(北嶋)		
百十m障	4位(北嶋)		
千六百m	R 3位(樋口・中山・神戸・北嶋)		
千五百m	7位(中山) 8位(奥)		
八種競技	6位(清水)・八百m 7位(中山)		
百十m障	8位(樋口)		
駅伝	6位		

総合3位

翠 巒 体 育 会 役 員 名 簿

(平成 13. 6. 22)

		氏 名	回	学 校 側 顧 問	
会 副 会 長 〃 〃 (剣 道) 〃 〃 (ラ グ ビ ー) 〃 〃 (バ ス ケ ッ ト) 〃 〃 (会 計) 〃 〃 (会 計) 〃 〃 会 計 監 査 〃 顧 問 〃 〃	長 長	山口正敏	58	学 校 長 ・ 小 林 克 茂 教 頭 ・ 福 田 賢 吾 運 動 部 長 ・ 坂 田 和 文	
	〃	秋池宗一郎	65		
	〃	川手義昭	62		
	〃	横田茂章	55		
	〃	塚越司洋	58		
	〃	木村進一	59		
	〃	林庭登志男	72		
	〃	藤佐義夫	68		
	〃	高橋浩生	58		
	〃	丸山功一郎	78		
	〃	廣田誠四郎	60		
	〃	岩国善次郎	64		
	〃	岩田武雄	50		
	〃	清水貞保	53		
〃		30			
理 事 陸 上 卓 球 ソフトテニス バスケット バ レ ー ラ グ ビ ー サ ッ カ ー 水 泳 柔 道 剣 道 野 球 応 援 硬式テニス 山 岳 スキー・スケート 弓手 空手 軟式野球 バドミントン	上	◎後藤次一	68	高橋賢作・関根正弘・田中雅徳 西澤 南・品川和男 浦野克彦・井坂 奨・柴崎浩明 立見賢治・篠原浩一・関口博士 塚本泰弘・澁谷正章・宮川淳吾 櫻井 清・川崎洋一・大野俊彦 坂田和文・丸山直樹・塩原秋雄 清水昭宏・橋本晃一 鳥居吉二・木村高己 戸塚泰聖・金井 明 樽見尚人・大須賀誠一・関口 理 毒島健一 植原政明・萩原弘和 塚越 究・松本正志 柴田 栄・齋藤敬一・丸山直樹 小林政幸・猿谷秀司・丸橋 寛 天野正明・宮崎秀宏 中野憲一・工藤正宏 女屋 浩一・濱野雅樹 三浦昭久・中村博昭	
	卓 球	◎深沢博昭	68		
	ソフトテニス	◎下山万吉	63		
	バスケット	◎丸山良真	68		
	バ レ ー	◎橋爪一弘	75		
	ラ グ ビ ー	◎藤原丸高	79		
	サ ッ カ ー	◎阿久沢正弘	81		
	水 泳	◎赤羽英哲	82		
	柔 道	◎新谷恭一	70		
	剣 道	◎小尾俊弘	72		
	野 球	◎関東寺瀬保正	69		
	応 援	◎飯野一政	83		
	硬式テニス	◎齋藤近光	69		
	山 岳	◎齋藤左石	74		
	スキー・スケート		77		
	弓手		75		
	空手		77		
	軟式野球		65		
	バドミントン		65		
	編集部	藤井 正弘	81		
	事務局 事務局 長	鳥居 吉二 櫻井 清	73 81		
	野 球 バ レ ー	◎飯島 勇二 ◎菊地 俊二	57 52		

◎は各部OB会長。

◎◎編集後記◎◎

「翠巒体育」が第20号を迎えました。読んでくださるのは、何千人もいる運動部OBの一部かなという気がします。毎号数度の編集会議を経て発行されるのですが、ほとんど手順は決まっていますので、感覚としては簡単に手際よく作られてしまします。多少なりとも、母校を懐かしく思い出すきっかけや、スポーツとは縁遠い日常生活の何らかの励みとなれば幸いです。しかし、20号も積み重ねますと、それなりに資料や記録としても貴重なものとなります。高々という伝統校であるが所以でしょう。それにしても、「タカタカ」とは、つくづく不思議な響きを持つ略称だと思えます。高校名とは普通通気つきません。この音の響きだけでも、もっと多くのOBを呼び覚ます力があるのではないかと感じています。

(橋爪・75期)

翠巒体育 第二〇号
平成十三年六月三日発行
翠巒体育会事務局
〒三七〇〇八六一
高崎市八千代町二四十一
群馬県立高崎高等学校内
☎〇二七(三三)四〇〇七四
制作・発送 (株)スパン